海外だより

中嶋(Cambridge)より 田中(物性研)へ

7月16日

田中君

お便り有難う。所員会の承認も得られた由、何よりです。

昨15日にはOxfordにやつて来て、ElliottのSt. John's Collegeに一泊、いまHarwellからの迎えの車を待つ間にこれを書いています。

三輪君のおかげか知りませんが、Elliott氏は大変親切にしてくれました。同氏から三輪君によろしくのこと。Peierlsとしばらく話合いましたが、老の一徹というのか、なかなか元気がよくて感心しました。たとえば小生がついうつかり、固体物理にはsmall problemsしか残つていないのではないかと言つたら、そんなことはない、hardではあるがいくつかのmajor problemsがある、たとえばBCS近似がどの程度の近似になつているか誰も知らないではないか、実験とうまく合うと云う以外に何か証明があるか？ といつた調子です。統計力学については、Ising modelは演習問題にすぎないのに、皆んな努力をしすぎるとのこと、(ferromagのモデルとしても、alloyのモデルとしてもunrealistic)。また、Green functionを使えば何か新しいことをやつた気になる最近の傾向も困つたものだ—— たとえばBaym-Kadanoffのテキストは well-known results をGreen functionで書いただけのものである。もちろんGreen functionを使つてはじめて事情がはつきりするという例もなくはないが、多くの人はそんなことを意識していない。

Peierlsの意見には60%ぐらい同感しました。

では帰国してから詳しく話しましょう—— S. N.

(文責 田中(一応原文のまま))